

令和 年 月 日

保護者各位

子宝保育園園長

### 保護者の皆さまにご理解いただきたい大切なこと（ケンカについて）

子どもが幼児期の入り口に立つとケンカが始まります。年長児になってもケンカは起こりますし、激しくなることもあります。私たちは子どもの発達段階の中で、ケンカは人間関係を学ぶ大切な経験だと考えています。なので、常にケンカをとめたり、大人が容易に解決したりしないように心掛けています。当然のことですが、大ケガに繋がりそうな場合や、あまりにも一方的にどちらかがやられているような場合（いじめを含む）などは、もはやケンカではないのでとめに入ります。

#### 成長とともに起きるケンカの主な理由

0～2歳頃	取り合いのケンカ	3歳頃	順番のケンカ
4歳頃	理屈・理由のケンカ	5～6歳頃	主張するケンカ
7～8歳頃	異質を感じてケンカ	9～10歳頃	グループ活動でケンカ

だからと言って、ケンカが起きても知らずに放任しているわけではありません。ケンカが起きた時に私たちは、まわりに危険なものがないか、小さい子はいないか等、大ケガに繋がりそうにならないか確認し、見守ります。落ち着いたところにケンカしたそれぞれの気持ちを私たちは受け止めます。それぞれの子どもが、自分の気持ちをうまく言葉などで表せるよう援助します。必要ならば、子ども達を集めて話し合いの時間を設けてみんなで考え合います。

私たちは、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、ケンカに限らず様々な葛藤やつまずきを体験しそれら乗り越えることにより芽生えてくるものだと考えています。そのために、その場の解決よりも子ども達が卒園するまでに自分の気持ちを調整する力が育つように援助をしていきます。子ども達には、自分の友達同士がケンカするような場面になった時に、お互いの気持ちを理解し橋渡しの役目ができるような思いやりのある子に育てて欲しいと思っています。

保育と教育の専門家として私たちは、「子どもがする必要のないケガ」はできる限りさせない努力をします。「子どもの命を守る」取り組みもします。ケンカは成長発達に合った子どもの姿であり、「育ちにとって必要なこと」として、保護者の皆さまのご理解をお願いしたいと考えます。また、保育園の内外に関わらず、ケンカに関わらず子どもの危険な場面を見かけたら注意していただき、「これは危ない」「これはこういうふうに仲直りしてみてもいい？」といったことがありましたら子ども達にでも遠慮なくお声掛けください。差し出がましいことですが、くれぐれも子どものケンカが保護者のケンカに発展しないようお互い様の気持ちを忘れずに子どもの発達を見守りください。冗談のようですが、保護者同士でケンカをして欲しくはありませんし、私たちは関与したくありません。子どものケンカのこと等で何か心配なことがありましたら、園長または職員にいつでもお伝えください。